

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	論理国語	2	2年	特進コース

使用教科書	副教材等
『探究 論理国語』(桐原書店)	『現代文キーワード読解』(Z会)

<p>科目の目標</p> <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容への取り組み ・振り返りの記述 ・発問への解答 ・課題、提出物の内容 ・定期テスト ・小テスト 	

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	文章の要旨を読む	チンパンジーは「おせっかい」をしない	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらいを把握することができる。	○	○	
	根拠をもって書く	動物の信号と人間の言語	情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができる。		○	○
一学期期末テスト	新しい見方を読む	カフェの開店準備	人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができる。	○	○	
	構成や展開を工夫しながら書く	イスラム感覚	立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができる。		○	○
二学期中間テスト	吟味しながら読む	芸術も科学も「別世界」を見せる	主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができる。	○	○	
	題材を決めて書く	ロボットは心を持つか	実社会に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができる。	○	○	
	複数の資料をもとに読む	ドローン兵器とSNS	設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができる。		○	○
二学期期末テスト	表現を工夫して書く	もしも宇宙に行くのなら	個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができる。	○	○	
	吟味しながら書く	器としての「わたしたち」	多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。	○	○	
学年末テスト	評価しながら読む	暴力はどこからきたか	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができる。		○	○
	助言を踏まえて書く	見えぬものを見るということ	文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。	○	○	
	資料に注目して読む	「である」ことと「する」こと	関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができる。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	文学国語	2	2年	特進コース

使用教科書	副教材等
探求 文学国語(桐原書店)	

科目の目標 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようになる。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。
② 思考・判断・表現	「書くこと」「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

評価方法
・学習内容への取り組み ・課題、提出物の内容 ・振り返りの記述 ・定期テスト ・発問への解答 ・小テスト

学習計画

期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	語り手の視点や場面の設定の仕方などについて評価することを通して、文章の内容を解釈する	ランドセル	語り手の視点や場面の設定の仕方についてまとめ、それを評価することで文章の内容を解釈することができる。	○	○	
	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える	途中下車	一人称小説という形式を踏まえて、作品の内容や展開を的確に捉えることができる。		○	○
一学期期末テスト	作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深める	山月記 生は乃ち君等と伍を為さんや〔人虎伝〕	作品の典拠に触れたり、作者の創作手法に迫ったりすることで、作品の解釈を深めることができる。		○	○
	選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にする	自分を解釈してもらおう喜び	創作の題材を決め、情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすることができる。	○	○	
二学期中間テスト	他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察する	詩5篇 詩の風合いとゆで卵の殻の関係について	詩を読み比べ、それぞれの文体の特徴や効果について評価することができる。	○	○	
	文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察する	復讐	ミステリアスな結末の続きを、作品の適切な読み取りをもとに想像し、解釈の多様性について考察することができる。		○	○
	文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫する	文学評論Ⅰ	文体の特徴や修辞の働き、語彙の選択などを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫することができる。		○	○
二学期期末テスト	作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める	こころ	主題の把握を通して、近代人の孤独や心の不可思議さについて自身の考えを深めることができる。		○	○
	読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫する	文学評論Ⅱ 小説コラム1・2	これまでに読んだ小説の文体に関する文章を参考に、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫することができる。	○	○	
学年末テスト	設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める	靴の話 米坂線109列車 根府川の海	戦争という題材に関連する複数の作品を読み、戦争に対する自分の見方、感じ方、考え方を深めることができる。		○	○
	読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直す	本を紹介する	授業の中で書いた作品を互いに読み合い、紹介し合うことで、自他の文章の特徴や課題を捉え直すことができる。	○	○	

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	古典探究	2	2年	特進コース

使用教科書	副教材等
『古典探究 古文編』・『古典探究 漢文編』(筑摩書房)	『体系古典文法』(教研出版)、『読んで見て覚える重要古文単語315』(桐原書店)、 『全訳古語例解辞典 第3版』(小学館)、『新明説漢文』(尚文出版)

科目の目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。
② 思考・判断・表現	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容への取り組み ・課題(パフォーマンス課題等も含む)、提出物の内容 ・定期テスト ・振り返りの記述 ・小テスト

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	話の構成や展開を捉える	宇治拾遺物語 ●袴垂、保昌にあふこと(巻第二)	登場人物それぞれのことばを具体的におさえながら、心情の変化や批判的思考を読み取る。			
	文章の内容を自分の知見と結びつけて考える	知音	登場人物のことばや行動を正確に読み取り、「知音」という故事成語についての理解を深める。	○	○	○
一学期期末テスト	話の構成や展開を捉える	伊勢物語 ●初冠(第一段) ●つひにゆく(第一二五段)	歌物語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉える。	○	○	○
	文章に表れるものの見方を踏まえ、自分の考えを	桃花源記	本文を通して、作者が理想とする生き方について考える。			
二学期中間テスト	古典特有の表現に注意して内容を捉える	源氏物語(一) ●光源氏の誕生(桐壺巻) ●若紫の君(若紫巻)	登場人物の行動や心理を場面や状況に応じて的確に捉える。	○	○	○
	漢詩を多面的・多角的な視点から評価する	漢詩十二首	詩を一首選んで現代語に訳し、それについてお互い批評し合う。			
二学期期末テスト	作品の成立した背景を踏まえて内容の解釈を深める	更級日記 ●継母との別れ ●源氏の五十余巻	過去を回想しているときの作者の心情を読み取る。	○	○	○
	書き手の意図を捉えて表現の特	史記 ●鴻門之会 ●四面楚歌	「史記」における歴史記述の特徴を評価する。			
学年末テスト	文章に表れたものの見方を踏まえ、自分の考えを広げる	大鏡(一) ●雲林院にて(序) ●花山院の出家(花山院)	登場人物ごとの思惑を読み取り、それぞれの人物について評価する。	○	○	○
	関心をもった事柄に関連する様々な文章を基	論語 孟子 荀子	3つの文章を読み、それぞれに表れている思想を比較する。			

教科	科目	単位数	学年	集団
地理歴史	日本史探究	4	2年	特進コース文系

使用教科書	副教材等
詳説 日本史	図説 日本史通覧, 詳説 日本史整理ノート

科目の目標
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容への取り組み 発問評価 課題、提出物の内容 小テスト
<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト 振り返りの内容 対話的な学びに対する取り組み

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
① 中間テスト	第1章 日本文化のあけぼの	文化の始まり	原始・古代社会の特色について、時代を通観する問いを表現する。			○
		農耕社会の成立	狩猟採集社会から農耕社会への変化を多面的・多角的に考察する。		○	
	第2章 古墳とヤマト政権	古墳文化の展開	国家と古墳文化の形成を基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解する。	○		
		飛鳥の朝廷	隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響を理解する。	○		
① 期末テスト	第3章 律令国家の形成	律令国家への道	律令制度の急速な導入が図られた背景を多面的、多角的に考察する。		○	
		平城京の時代	東アジアとの関わりに着目し、奈良時代の政治的展開を理解する。	○		
		律令国家の文化	遣唐使の派遣により、日本列島の文化に国際性がもたらされたことを多面的、多角的に考察する。		○	
	第4章 貴族政治の展開	律令国家の変容	律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解する。	○		
摂関政治		摂関政治の成立やそれ以前との政治の在り方の違いなどについて、問いを表現する。			○	
		国風文化	東アジアとの関係性の中で国風文化が成立したことを理解する。	○		
		地方政治の展開と武士	地方の豪族や武力をもった勢力の動向が政治や社会にどのような影響を与えたかについて多面的・多角的に考察する。		○	
② 中間テスト	第5章 院政と武士の躍進	院政の始まり	中世社会における権力主体の担い手について、時代を通観する問いを表現する。			○
		院政と平氏政権	武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解する。	○		
	第6章 武家政権の成立	鎌倉幕府の成立	鎌倉幕府の成立年に諸説があることを基に、武家政権の特徴を多面的・多角的に考察する。		○	
		武士の社会	分割相続から単独相続への変化などを基に、武士の社会の特徴を理解する。	○		
		モンゴル襲来と幕府の衰退	東アジアとの関係性の中でモンゴル襲来が行われたことを理解する。	○		
		鎌倉文化	鎌倉時代の宗教や文化に見られる平安時代からの特徴の継承や差異を多面的・多角的に考察する。		○	
② 期末テスト	第7章 武家社会の成長	室町幕府の成立	室町幕府の政治や経済面の権力基盤の特徴を理解する。	○		
		幕府の衰退と庶民の台頭	自治的な村や町の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、多面的・多角的に考察する。		○	
	第8章 近世の幕開け	室町文化	室町期の宗教や文化の特徴が、経済の進展や各地の都市や村の発達や東アジアとの交流などと関連していることを理解する。	○		
		戦国大名の登場	戦国時代の領国経営と畿内との政治的・経済的な関係について多面的・多角的に考察する。		○	
		織豊政権	統一政権としての織豊政権の成立などを基に、時代を通観する問いを表現する。			○
		桃山文化	織豊政権の成立やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目し、桃山文化の特徴を多面的・多角的に考察する。		○	
③ 学年末テスト	第9章 幕藩体制の成立と展開	幕藩体制の成立	江戸幕府の対外政策の推移と世界の諸国や諸地域の動向を踏まえ、鎖国に至った経緯を多面的・多角的に考察する。		○	
		幕藩社会の構造	幕藩社会における身分制の構造や諸産業の発達を理解する。	○		
		幕政の安定	戦乱の終結を機に、幕政が文治政治に転換する過程を多面的・多角的に考察する。		○	
	第10章 幕藩体制の動揺	経済の発展	諸産業の発達に伴って、貨幣経済も発達したことを理解する。	○		
		元禄文化	町人が中心となって元禄文化が担われたことを理解する。	○		
		幕政の改革	享保の改革が行われるに至った社会的背景やその成果を多面的・多角的に考察する。		○	
		宝暦・天明期の文化	幕府政治のあり方を批判する思想や近代的な合理主義が生まれたことを理解する。	○		
		幕府の衰退と近代への道	寛政の改革と天保の改革が行われるに至った社会的背景やその成果を多面的・多角的に考察する。		○	
		化政文化	三都の繁栄を背景として民衆を基盤とする町人文化が最盛期を迎えたことを理解する。	○		

教科	科目	単位数	学年	集団
公民	公共	2	2年	特進コース

使用教科書	副教材等
高等学校 公共(帝国書院)	テーマ別資料 公共2025(東京法令出版) 高等学校 公共ノート(帝国書院)

<p>科目の目標</p> <p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>(3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
② 思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断すると同時に、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・振り返りの記述内容 ・課題、レポートなどの記述内容 ・グループワーク、プレゼンテーションなどの活動に対する取り組み 	

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	第1部 わたしたちがつくる社会 第1章 社会の中の私たち	第1節 青年期と社会参加 現代社会、青年期、悩み、ジェンダー、学び、社会参画とキャリア	現代の社会が抱える課題等についての知識を習得し、その活用方法を身に付けている。	○		
		第2節 宗教・思想・伝統文化と社会	現代社会や、青年期、宗教について考察し、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。		○	
		宗教、日本思想、日本の伝統と文化	公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。			○
一学期 期末テスト	第2章 思想から学ぶべきもの	第1節 倫理的な見方・考え方 古代ギリシャ、古代中国、近代西洋、現代の思想	社会と人間に関わる思想についての知識を理解し身に付けている。	○		
			先哲の考え方を活用して具体的な事例についての判断を行い、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。		○	
			公共的な空間での人間の在り方・生き方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。			○
	第3章 私たちの社会の基本原則	第1節 社会の基本原則と憲法の考え方	近代立憲主義の考え方の基本的な理解を踏まえ、国民主権、基本的人権の尊重、権力分立、法の支配など、近代憲法を構成する諸原則に関する知識を身に付けている。	○		
		近代立憲主義、日本国憲法(平等権、自由権、社会権、新しい人権)、人権の国際化	最高法規としての憲法の位置付けに関する基本的な考え方をを用いて、憲法改正手続きの妥当性などについて判断し、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。		○	
			公共的な空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現実社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。			○

一学期中間テスト	第2部 社会のしくみと諸課題 第1章 私たちと法	第1節 法の意義と司法参加 社会規範と法、生活と法、契約、消費者の権利、司法制度	所有権や契約に関する基本的な理解を踏まえ、契約の成立や解除などの資料を活用して、法的な権利と責任に関する知識を身に付けている。 契約や司法制度について判断し、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。 多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○			○
	第2章 私たちと政治	第1節 民主社会と政治参加 政治と権力、議院内閣制と国会、権力分立と行政、地方自治、政党政治、選挙制度	国民の政治参加にはさまざまな手段があることを理解した上で、政治参加の権利(参政権)と日本の選挙制度のしくみについて、特徴と課題を指摘するために必要な知識を身に付けている。 国会・地方自治について理解し、改善すべき点や課題として捉えるべき内容について、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。 政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に社会に関わろうとしている。	○			○
二学期期末テスト	第3章 私たちと経済	第1節 市場経済のしくみ 経済市場、市場機構、企業、金融、財政、経済変動 第2節 豊かな社会の実現 産業構造の変化、中小企業と農業、労働者の権利、社会保障	経済のしくみと、企業・政府の役割、日本経済の変遷とその課題に関する知識を身に付けている。 市場経済の考え方をを用いて、市場機構や分業のあり方を理解し、その内容をわかりやすく表現することができる。 市場経済の機能と限界に関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○			○
			経済のグローバル化に関する基本的な理解に基づき、グローバル企業の展開と課題について理解し、自由貿易協定の動向について必要な知識を身に付けている。 新興国台頭の背景と、近年の国際経済・金融危機に関する基本的な知識を用いて、国際経済におけるパワーバランスの変化とそれに生じる課題について説明することができる。 経済のグローバル化と国際社会における貧困や格差の問題などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○			○
学年末テスト	第3章 私たちと経済	第3節 国際経済の動向と格差の是正 国際経済のしくみ、地域経済統合、グローバル化と自由貿易協定、経済格差	これまでの学習で身に付けた知識を活用し、自らの関心に基づいて、より学習を深めることができる課題を設定している。 課題に関する統計や図表等の情報を整理し、それに基づき自ら考え判断したことを整理して、レポート等の形でわかりやすく表現している。	○			○
	第3部 持続可能な社会の実現に向けて		第1部、第2部の学習を振り返りながら、幸福、正義、公正などに着目して現代の諸課題を探究する活動に積極的に取り組み、持続可能な地域、国家、社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体として、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。				○

教科	科目	単位数	学年	集団
数学	数学Ⅱ・数学B	6	2年	特進コース

使用教科書	副教材等
数研出版 高等学校 数学Ⅱ・数学B	数研出版 4プロセス 数学Ⅱ+B

科目の目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分、数列及び統計的な推測の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したり、離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分、数列及び統計的な推測の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付ける。
② 思考・判断・表現	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したり、離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身につける。
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

評価方法
知識・技能の評価: テスト、小テスト、レポート課題の点数をもとに評価する。 思考・判断・表現の評価: テスト、小テストの点数、レポート課題の点数をもとに評価する。 主体的に学習に取り組む態度: 知識・技能や思考・判断・表現の評価をふまえながら、テストの点数、授業内でのレポートへの取り組み方、授業後の振り返り等もとに評価する。

学習計画				
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点
				① ② ③
4	式と証明		三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解できる。 式の計算の方法を概に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察できる。 実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明できる。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
5	複素数と方程式		数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算ができる。 因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。 2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用しようとする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
6	図形と方程式		座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。 不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察できる。 数量と図形との関係などに着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え問題解決に利用しようとする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
7 9	三角関数		三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解できる。 三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解できる。 三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。 二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決しようとする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
	指数関数・対数関数		指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。 対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすることができる。 指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。 二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決しようとする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
10	微分法・積分法		微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解することができる。 不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。 積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決しようとする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
11	数列		等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。 漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりできる。 自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察できる。 事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用しようとする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
12 1	統計的な推測		確率変数と確率分布について理解できる 二項分布と正規分布の性質や特徴について理解できる。 確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察できる。 目的に応じて標本調査を設計し、母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに、標本調査の方法や結果を批判的に考察できる。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
2	問題演習		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする	○ ○ ○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	化学基礎	2	2年	特進コース理系

使用教科書	副教材等
新編 化学基礎(数研出版)	改訂版 リードLightノート化学基礎(数研出版)

<p>科目の目標</p> <p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を以下の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけることができる。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。</p> <p>(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究する態度をもつことができる。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化について理解することができる。 実験に関して、必要な観察や基本的な技能を身につけることができる。
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 物質やその変化に関して課題を発見し、物質の結合の変化に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化に関心をもつことができる。 日常生活と学習事項の関連性に対し、疑問をもつことができる。

<p>評価方法</p> <p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等 思考・判断・表現: 授業プリント、グループワークの取組等 主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	化学と人間生活	化学と物質 化学の特徴 物質の分離・生成 単体と化合物 熱運動と物質の三態	単体や化合物、粒子の熱運動の関係について理解し、物質の分離や生成方法について実験を通じて身につけている。	○		
			日常にある物質を単体や化合物と判断したり、熱運動と温度の関係を表現することができる。		○	
一学期 期末テスト	物質の構成	物質の構成粒子 原子の構造 電子配置と周期表	学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○
			原子の構造やその構成粒子について理解し、周期表と関連付けて考えることができる。	○		
二学期 中間テスト	物質の構成	物質と化学結合 イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合	各元素の性質について、周期表の元素の位置関係から説明することができる。		○	
			イオン結合、共有結合、金属結合の違いについて理解することができる。	○		
二学期 中間テスト	物質の変化とその利用	物質と化学反応式 物質質量 化学反応式	結合の違いにより各物質にどのような違いが生じるのかを思考し、表現することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○
三学期 学年末テスト	物質の変化とその利用	化学反応 酸・塩基と中和 酸化と還元 化学が拓く世界	原子量、物質質量について理解し、化学反応の量的関係について求めることができる。	○		
			物質質量が意味することについて説明を行うことができ、化学反応に関する量の関係について表現することができる。		○	
三学期 学年末テスト	物質の変化とその利用	化学反応 酸・塩基と中和 酸化と還元 化学が拓く世界	学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○
			酸と塩基の関係、酸化と還元について理解し、実験を通じて身につけることができる。	○		
三学期 学年末テスト	物質の変化とその利用	化学反応 酸・塩基と中和 酸化と還元 化学が拓く世界	中和における量的関係や酸化還元反応における電子の授受を思考し、減少について表現することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	物理	2	2年	特進コース理系 選択

使用教科書	副教材等
新編 物理(数研出版)	改訂版 リードLightノート物理(数研出版)

<p>科目の目標</p> <p>物理的な事象・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事象・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3)物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解をしている。 科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようとしている。
② 思考・判断・表現	物理的な事象・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	物理的な事象・現象に主体的に関り、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	
<p>知識・技能:定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等</p> <p>思考・判断・表現:実験レポート、授業プリント、グループワークの取組等</p> <p>主体的に学習に取り組む態度:実験レポート、授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等</p>	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	力と運動	平面内の運動と剛体	曲線運動の速度と加速度を用いて、平面内を運動する物体の運動の様子を表現する。	○	○	
			放物運動の観察などを行い水平投射及び斜方投射された物体の運動を直線運動との共通点、相違点を関連付けて理解する。		○	○
一学期 期末テスト	力と運動	運動量	大きさのある物体のつり合いに関する実験などを行い、剛体のつり合う条件を見いだして理解する。	○		○
			運動量と力積の関係について理解する。	○		
二学期 中間テスト	力と運動	円運動と単振動	物体の衝突や分裂に関する実験などを行い、運動量保存の法則を理解する。	○		○
			衝突における力学的エネルギーの変化を、力学的エネルギー保存の法則を用いて表現する。	○	○	
二学期 期末テスト	力と運動	万有引力	振り子に関する実験などを行い単振動の規則性を見いだして理解する。	○		○
			単振動する物体観察などを行い、物体の様子を表す方法や物体に働く力などを理解する。		○	○
三学期 学年末テスト	熱と気体	気体分子の運動	惑星の観測資料に基づいて、惑星の運動に関する法則を理解する。	○	○	
			万有引力の法則及び万有引力に陽よる物体の運動について理解する。	○		
三学期 学年末テスト	熱と気体	気体分子の運動	万有引力による運動を円運動との共通点、相違点を関連付けて理解する。	○		○
			気体分子の運動と圧力との関係について理解する。	○		
三学期 学年末テスト	熱と気体	気体分子の運動	気体の内部エネルギーについて、気体分子の運動と関連付けて理解する。	○	○	
			気体の状態変化に関する実験などを行い、熱、仕事及び内部エネルギーの関係を理解する。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	生物	2	2年	特進コース(理系選択)

使用教科書	副教材等
新編 生物(数研出版)	改訂版 リードLightノート生物(数研出版) 改訂版 フォトサイエンス生物(数研出版)

<p>科目の目標</p> <p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 生物現象や生態系について理解することができる。 実験に関して、必要な観察や基本的な技能を身につけることができる。
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 生物現象や生態系に関して課題を発見し、課題解決に向けた方法を思考、判断するとともに、それらを表現することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 生物現象や生態系に興味・関心をもつことができる。 日常生活と学習事項の関連性に対し、疑問をもつことができる。

評価方法
<p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等</p> <p>思考・判断・表現: 定期テスト、授業プリント、グループワークの取組等</p> <p>主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、授業内アンケート、課題や提出物の取組状況等</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	生物の進化	生命の起源と生物の進化 遺伝子の変化と多様性 遺伝子の組み合わせの変化 進化のしくみ 生物の系統と進化	<ul style="list-style-type: none"> 生物の形質の変化が、突然変異によって生じることを理解する。 	○		
			<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の変化と形質の変化を示した資料を比較し、遺伝子が変わると、形質が変化することを見いだすことができる。 		○	
			<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の変化と多様性に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 			○
一学期 期末テスト	細胞と分子	生体物質と細胞 タンパク質の構造と性質 化学反応にかかわるタンパク質 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	<ul style="list-style-type: none"> 細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。 	○		
			<ul style="list-style-type: none"> タンパク質の立体構造が、タンパク質の機能と密接に関係していることを理解し、説明することができる。 		○	
			<ul style="list-style-type: none"> タンパク質の構造と性質に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 			○
二学期 中間テスト	代謝	代謝とエネルギー 呼吸と発酵 光合成	<ul style="list-style-type: none"> 生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。 	○		
			<ul style="list-style-type: none"> 生体内の化学反応のうち、酸化還元反応を伴う反応では、大きなエネルギーの出入りが起こることを理解し、説明することができる。 		○	
			<ul style="list-style-type: none"> 代謝とエネルギーに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 			○
二学期 期末テスト	遺伝情報の発現と発生	DNAの構造と複製 遺伝情報の発現 遺伝子の発現調節	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝情報の発現のしくみを理解する。 	○		
			<ul style="list-style-type: none"> 真核生物と原核生物の遺伝情報の発現の過程を表した資料を比較し、遺伝子発現の過程の違いを見いだすことができる。 		○	
			<ul style="list-style-type: none"> DNAの塩基では、ウラシルではなくチミンが用いられている理由を考え、説明することができる。 			○
三学期 学年末テスト	遺伝情報の発現と発生	発生と遺伝子発現 遺伝子を扱う技術	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解する。 	○		
			<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子組み換えについて、組換えが起こったことを検証する方法を理解する。 		○	
			<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子組換え技術によって、ある生物の遺伝子を別の生物に発現させることができる理由を考え、説明することができる。 			○

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	体育	3	2年	2学年

使用教科書	副教材等
	ステップアップ高校スポーツ(大修館書店)

科目の目標 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、 ・運動の多様性や体力の必要性について理解している。 ・運動が豊かに継続することができるようにするための技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	自己や仲間の課題や豊かなスポーツライフを継続するための課題を発見し、 ・合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する力を身に付けている。 ・解決の仕方や気付いたこと等について自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、 ・公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を高めようとしている。 ・健康・安全を確保したり、運動を主体的に取り組もうとしている。

評価方法
・運動の知識・技能の点検、確認、分析(スキルテスト、定期テスト、発表会、学習プリント・ノート等) ・記述の点検、確認、分析(学習プリント・ノート、グループワーク等) ・取組状況の観察、確認(グループ活動の姿勢、安全性の確保、授業への取組状況 等)

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 (集団行動、体ほぐし)	集合、整頓、列の増減、方向変換などの仕方を理解し、行動できる。	○		
			定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解できる。	○		
			いろいろな体ほぐしの運動を行うことを通して、気付いたり、仲間と関わりあったりしている。		○	
5	球技	ネット型	集団行動や体ほぐし運動を自主的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○
			選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、学習した具体例を挙げている。	○		
			役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。	○		
5	球技	ベースボール型	選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○	
			球技の学習に自主的に取り組もうとしている。			○
			身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。	○		
6	水泳	平泳ぎ、メドレー (スタート、ターン)	移動しながらボールを捕ること、一連の動きでねらった方向へ投げることができる。	○		
			バット操作、ボール操作及びボールを持たないときの動きなどの改善についてについてのポイントを発見している。		○	
			自己やチームの課題の解決に向けて、自己の考えを述べたり相手の話を聞いたりしている。			○
6	水泳	平泳ぎ、メドレー (スタート、ターン)	各種目で用いられる技術の名称やポイントを理解し、それぞれの技術を実践することができる。	○		
			合理的な動きと自己の動きを比較して、成果や改善すべきポイントを見付けることができる。		○	
			自主的に取り組むとともに、事故防止の心得を遵守し健康・安全を確保している。			○

7	体育理論	スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術 技能の上達過程と練習	技能と体力の関係や高めるときに気を付けるべき点を説明できる。 技能の型の違いやそれぞれの練習のしかたを説明できる。 練習によって技能が上達すると、どのような特徴がみられるかをあげることができる。	○	○	○
9	体づくり運動	実生活に生かす運動の計画 (新体力テスト、体力を高める)	運動には体力向上の原則があることを理解し、運動のねらいやバランスを考え、自分にあった運動を計画し取り組むことができる。 運動のねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定することができる。 自主的に取り組むとともに、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保すること。	○	○	○
10	陸上競技	短距離走	記録の向上につながる動きのポイントを理解し、技術と関連させた運動や練習を継続して行うことができる。 合理的なフォームを身に付けることでタイムの短縮を図ることができる。 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。	○	○	○
		ハードル走	自主的に取り組むとともに、結果を冷静に受け止め、課題解決に向けて、お互いに助け合い、教え合おうとしている。	○	○	○
11	球技 ダンス	ゴール型 (男子)	スタートダッシュからリズムカルにスピードを維持しながらハードルを越えることができる。 ハードルを低く素早く越えながらタイムを短縮したり、競争したりすることができる。 自己や仲間の課題について、言葉や文章で表したり、他者に分かりやすく伝えたりしている。 自主的に取り組むとともに、結果を冷静に受け止め、課題解決に向けて、お互いに助け合い、教え合おうとしている。	○	○	○
		現代的なリズムのダンス (女子)	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。 安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。	○	○	○
12	体育理論	効果的な動きのメカニズム 体カトレーニング 運動やスポーツでの安全の確保	ダンスには、その踊りの特徴と表現の仕方があることを理解している。 リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせ、動きに変化を付けて踊ることができる。 ダンスの特徴に合わせて、よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間と伝え合い、合意形成を図っている。 課題について、互いに助け合い教え合おうとしている。	○	○	○
			体の動きはどのようなしくみで開始され、持続していくのかを説明できる。 目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を説明できる。 スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、せおの発生原因と予防方法を説明できる。	○	○	○
1	陸上競技	長距離走	自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。 記録の向上に有効な練習方法のやり方について、自己の考えを伝えることができる。 一人一人の技能の違いに応じた課題に自主的に取り組んでいる。	○	○	○
2	球技	ゴール型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。 安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。	○	○	○
2	体育理論	生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造	社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのかを説明できる。 「する」スポーツライフスタイルについて例をあげ説明できる。 国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを説明できる。 豊かなスポーツライフを創造していくための課題について例をあげて説明できる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語(英語)	英語コミュニケーションⅡ	5	2年	特進コース

使用教科書	副教材等
ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION Ⅱ	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION Ⅱ 本文学習ノート システム英単語 5訂版

科目の目標
(1)聞くこと 日常的话题について、話される語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 (2)話すこと[やりとり] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 話すこと[発表] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 (3)読むこと 日常的话题について、使用する語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を読み取り書き手の意図を把握することができるようにする。 (4)書くこと 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めている。 ・聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する。 ・これらを活用して、適切に表現したり伝え合ったりする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	ペーパーテスト パフォーマンステスト

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	ウェブ記事 ディスカッション	Unit 2	フィギュアスケートはスポーツかどうかについて、主張と根拠を聞き取ることができる。	○		
			eスポーツについて、主張と根拠を踏まえ、意見を伝え合うことができる。		○	○
6	新聞記事 レビュー	Unit 3	食についての社説と投稿を読み、2つの異なる主張を読み取ることができる。	○		
			あるレストランについて、紹介文とそれについてのコメントを書くことができる。		○	○
9	雑誌の記事 ペアプレゼンテーション	Unit 4	大きな影響を与えた発明について、経緯と結果を聞き取ることができる。	○		
			身の回りにある発明品を取り上げ、できた経緯と私たちへの影響について紹介し合うことができる。		○	○
11	インタビュー記事 グループプレゼンテーション	Unit 6	パーソナリティについてのインタビュー記事を読み、問いに対する答えを的確に読み取ることができる。	○		
			パーソナリティについてのアンケートを取り、その結果についてグループで発表することができる。		○	○
1	伝記 グループディスカッション	Unit 7	貨幣の肖像になった人物について、時系列に正しく理解することができる。	○		
			新紙幣のデザインについて、賛否の立場を明確にして、グループで話し合うことができる。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
情報	情報 I	2	2年	2学年

使用教科書	副教材等
日本文教出版 情報 I 図解と実習(情 I 711)図解編	

<p>科目の目標</p> <p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1)効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深める。</p> <p>(2)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。
② 思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

評価方法	
① 知識・技能	期末・学年末テスト、小テスト、課題・成果物・実習での発表内容
② 思考・判断・表現	期末・学年末テスト、小テスト、課題・成果物・実習での発表内容
③ 主体的に学習に取り組む態度	実習への取り組み、小テスト、課題・成果物・実習での発表内容
上記による総合的な評価を行う。	

学習計画						
学期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1	図解編 第1章 情報社会とわたしたち 第1節 情報社会を見渡してみよう	① SNSの普及と情報モラル ② 情報社会とは ③ 大切な情報を守るために ④ 情報社会を支える法律 ⑤ 著作権に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> SNSの利便性について具体的に理解している。 SNSの長所・短所について例をあげて説明できる。 情報社会とは何かについて理解している。 情報社会のさまざまな課題に対して主体的に解決策を考えようとしている。 情報セキュリティを高めるためにどのような方法があるか理解している。 個人で取り組む情報セキュリティ対策について理解している。 個人情報や知的財産権、産業財産権は法律によって扱い方が定められることを理解している。 著作権に関する法律を理解して、著作物を主体的に利用しようとしている。 	○	○	○
	実習編 section2	⑥ 情報通信技術で変わる社会 STEP1 ブレーンストーミングと	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信技術によって豊かになった社会を持続するためにどうすればよいか 出た意見の整理や取り組むべき問題の決定に主体的に取り組もうとしている。 	○	○	○
1	図解編 第2章 コミュニケーションと情報デザイン 第1節 メディアとコミュニケーション	① コミュニケーションとメディアの変遷 ② コミュニケーション手段の多様化 ③ インターネット上のコミュニケーションの特性 ④ ソーシャルメディアの活用と注意点	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのメディアの特徴について理解している。 コミュニケーションサービスの特徴を考え、説明することができる。 実際の場面を想定して、どのコミュニケーション手段を選択すべきかを主体的に考えようとしている。 ソーシャルメディアの活用方法と注意点を理解している。 	○	○	○
	第2節 情報デザイン	① デザインの基本を見て ② 情報デザイン	<ul style="list-style-type: none"> 情報を伝えるときに大切なデザインの基本について理解している。 身近にある情報デザインの例を抽象化、可視化、構造化に分類することができる。 	○	○	○
		③ 情報を伝えるさまざま	<ul style="list-style-type: none"> 身近なポスターやWebサイトから、情報を伝えるための工夫を見つけようとして 	○	○	○

<p>実習編 section8 STEP1 家庭内 LANを設計しよう</p>	<p>⑤ 情報セキュリティの重要性 家庭内LANを設計しよう</p>	<p>・情報セキュリティを確保するための技術を知り、情報通信ネットワークを適切に利用しようとしている。 ・ネットワーク環境について、機器の接続やセキュリティの確認すべきポイントについて理解している。</p>	<p>○</p>
<p>第2節情報システムとデータベース</p>	<p>①情報サービスとそれを支える情報システム ② データベース</p>	<p>・情報サービスで解決できる課題について、自分の考えを深めようとしている。 ・データベース管理システムについて理解している。</p>	<p>○</p>
<p>実習編 section9 1 「sAccess」を使ってデータベースを操作してみよう 第3節データの活用</p>	<p>③ データの形式とデータモデル 1 「sAccess」を使ってデータベースを操作して ① データの収集 ② データの分析</p>	<p>・データベースが必要となる例やその構築例について自分の考えを深めようとしている。 ・データベース学習システムを操作して、データの分析に取り組もうとしている。 ・データの性質とその特徴について理解している。 ・データの性質とその特徴について理解している。 ・集計した数値データやテキストデータを分析し、考察している。 ・データの収集・分析に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>○</p>
<p>実習編 section10 STEP1 数値データを分析しよう</p>	<p>データを統計的に分析しよう</p>	<p>・データの収集・分析に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>○</p>